

ピーマン



緑黄色野菜の代表格ピーマン。レモンと同じくらいのビタミンCが含まれており、風邪の予防や疲労回復、肌荒れなどに効果があります。

作型 連作を嫌うので、ピーマン、ナス、トマト等のナス科植物の跡地には3~4年作付しない。低温に弱いので、無理な早植えをしない。

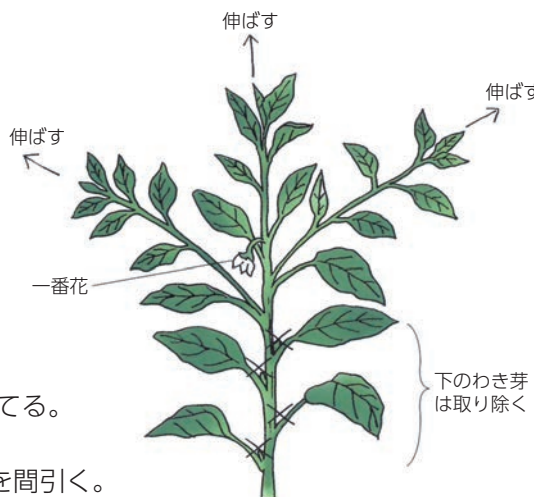
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			○	△		■	■	■	■	■	■	■	京みどり、グリーン800、京波

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヶ月前に土とよく混合	
元肥 a当たり	
醗酵鶏糞	50kg
野菜専用肥料	10kg
畝立時施用	

- 1条植え：畝幅150cm
- 株間：45~50cm
- マルチをする場合は、植え付け7~10日前に行い十分に地温を上げておく。
- 深植えにならないように注意！



整枝・摘果

- 第1花(果)より下から出る2本の側枝を伸ばし盃状に仕立てる。
- 伸びてくる太い枝を支柱につり上げる。
- 生育が進み込み合ってきたら、日がよく当たるように、枝を間引く。

追肥・敷きわら

- 一番果の肥大始め頃から20日ごとに追肥する。
(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料4kg/aまたは油粕8kg/a)
- 敷きわらは梅雨明け頃から厚く敷く。
- 窒素過多、高温、水分不足は石灰欠乏症である尻腐れの発生を助長するので、乾いたら十分に水やりをする。
- パプリカは開花してから完熟するまで50~60日かかる。果実が100g以上と大きいため、変形果などは早目に摘果して草勢維持に気を配る。

防除

病害虫名	耕種防除	農薬による防除
疫 病	枝元を高くして植える 窒素の多施用を避ける 通風を良くする	リドミル粒剤2 (2~3g/株) 株元散布 前日まで3回
ウ イ ル ス 病	早めに抜き取る	アブラムシ類の防除を行う
アブラムシ類	光反射フィルムマルチ 並びにテープを用いる	トレボン乳剤 1,000倍 前日まで3回
ネキリムシ	幼虫の捕殺 周辺雑草の除去	ダイアジノン粒剤5 (4~6kg/10a) 2回 定植時全面土壌混和

収穫

- 実が大きくなったものから早めに収穫する。
- 収穫が遅れると、赤くなったり黒ずんだりしてくる。

スイートコーン



リノール酸やオレイン酸を多く含むスイートコーンは、悪玉コレステロールを減らす働きがあり、動脈硬化の予防や改善に効果があるといわれています。

作型

収穫適期の幅が狭いので、一度に多くまかないで、計画的に栽培する。一株に一穂収穫するように除房する。花粉が十分に雌穂にかかるように、一列に植えないようにする。マルチ栽培も良い方法。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春まき				○	○		■	■	■	■			キャンベラ (黄種)、カクテル、 ピーターコーン (白黄粒)

○：種まき ■：収穫

畑の準備・定植

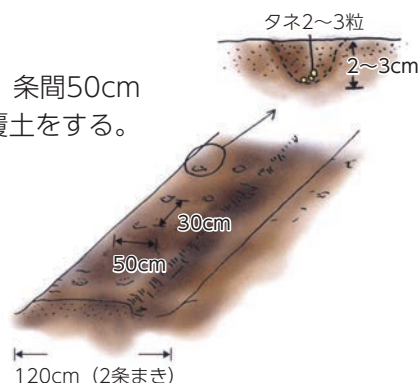
土づくり a当たり

堆肥	300kg
セルカ (有機石灰)	15kg
BMようりん	2kg
植え付け1ヶ月前に土とよく混合	

元肥 a当たり

野菜専用肥料	10kg
畝立時施用	

- 2条まき：畝幅120cm 株間30cm 条間50cm
- 1カ所2～3粒まきとし、2～3cmの覆土をする。
- ポットまきの場合、2～3粒播種し、草丈10cm位で1本に間引き、15cmで定植する。



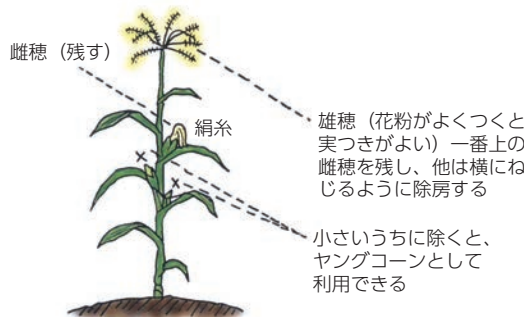
間引き・追肥・土寄せ

本葉4～5枚時：間引いて1本立ちとし、その後、追肥、土寄せを行う。(草丈15cm頃)

草丈70～80cm頃：土寄せを行う。

雄穂の出る頃：追肥後、土寄せを行う。

(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5kg/a)



除房

- 最上位の第一雌穂を残し、他は早めにかき取る。

防除

病害虫	耕種防除	薬剤防除
アワノメイガ	幼虫を見つけしだい補殺する	トレボン乳剤 (1,000倍) 7日前まで4回
アワヨトウ	除草を行う	

収穫

- 絹糸が出て3週間後
- 絹糸が黒褐色となった頃) が収穫の目安
- 気温の低い朝に収穫する。(時間の経過とともに水分・糖度が低下するので予冷を行う)

